

外国人技能実習生をどこから受け入れるか アジアの国際労働市場の変化

日本の社会は外国人労働者なしでは回らなくなっている。ところが、生産年齢人口の減少に直面する国が増えてきたので、アジアの国際労働市場では外国人材の争奪戦が起きるであろう。将来、日本はどこから外国人材を入れるのであろうか。

技能実習生は当初、中国からの受け入れが多かった。しかし、2013年頃から中国人が減少に転じ、逆にベトナム、フィリピン、インドネシアが増え始め、19年にはベトナム22万人、中国8万人と大きく逆転した。近年はミャンマー等も増えている。

将来も、技能実習生依存は避けられないが、日本が必要に応じて技能実習生を手当て出来るかは問題がある。アジアの国際労働市場は極めて“競争的”であり、日本の競争力が問われている。

第1に、「技能実習生」と言っても、その実態は出稼ぎ労働者であり、賃金の高いところへ流れていく。高度経済成長期には、アジアの途上国にとって、日本は憧れの的だった。日本の魅力（ソフトパワー）が外国人材を引き寄せていた。

しかし、「失われた30年」ゼロ成長の日本は魅力が後退している。そうなると、賃金の高さが勝負になるが、日本の賃金は必ずしも高いわけではない。例えば、韓国17万円、日本15万円である。加えて、語学教育などの準備費用が日本は高いので、実質上、韓国との差はさらに大きい（本誌18年3月号拙稿参照）。

このように、日本の競争力は低下している。いま、韓国は厳しい状況にあり、また、朝鮮半島のリスクも高く、ベトナム人も日本志向が高まっているが、それは相対的なものであって、日本の競争力水準が高まっているわけではない。

第2は、送り出し国の変化である。自国の経済発展と人口動態から、今後、労働力余剰に格差が生じてくることだ。いま、ベトナム人が技能実習生として一番多いが、あと10年もしないうちに減少に転じ、ベトナムは第2の中国になるであろう。ベトナムに代わる国はどこであろうか。

2000年代初めは、中国は出稼ぎ労働力の供給国であった。しかし、10年代になると、生産年齢人口が減少に転じ、加えて内陸部にも経済発展が波及し、農民工の供給減少、賃金の急上昇が起きた。それに伴い、海外への出稼ぎも減った。20年代は、一部職種では労働力の輸入も発生するのではないか。

中国が労働力の輸出国から輸入国へ、この逆転はアジアの労働力市場に巨大な衝撃波をもたらすであろう。アジア国際労働市場のひっ迫は不可避と思われる（本誌18年9月号拙稿参照）。アジアは、外国人材の争奪戦になるであろう。

ベトナムは10年以内に、労働力の送り出し国の役割を終えるのではないか。2030年代になると、労働力人口の減少局面に入るからだ（表2）。加えて、経済発展に伴い、自国での労働需要が増加、賃金も上昇するので、今後10年以内に海外出稼ぎ労働者は減少に転じるであろう。

長期的には、出生率の高いフィリピンが送り出し国として期待できる。インドネシアも人口大国であり、送り出し国であろう。グローバル化が一層進展すれば、そのあとはアフリカ諸国だ（表2）。

機械化、ロボット化が進めば、技能実習生への需要は抑制できる。このイノベーションが進まなければ、外国人材の獲得は厳しい争奪戦に参加するしかない。

表1：外国人技能実習生の推移

(単位：人)

| 年 | 合計 | ベトナム | 中国 | フィリピン | インドネシア |
|------|---------|---------|---------|--------|--------|
| 2011 | 143,308 | 13,524 | 107,601 | 8,233 | 8,016 |
| 2013 | 155,214 | 21,632 | 107,228 | 10,077 | 10,064 |
| 2015 | 192,655 | 57,581 | 89,086 | 17,740 | 15,307 |
| 2016 | 228,588 | 88,211 | 80,857 | 22,674 | 18,725 |
| 2017 | 274,233 | 123,563 | 77,567 | 27,809 | 21,894 |
| 2018 | 328,360 | 164,499 | 77,806 | 30,321 | 26,914 |
| 2019 | 410,972 | 218,727 | 82,370 | 35,874 | 35,404 |

出所：法務省「在留外国人統計」。

表2：世界の生産年齢(15～59歳)人口の将来推計 (単位：百万人)

| | 欧州 | 米国 | 中国 | ベトナム | フィリピン | 東南アジア | 日本 | アフリカ |
|-----------|-----|-----|------|------|-------|-------|-----|-------|
| 2010 | 460 | 190 | 946 | 59 | 56 | 382 | 72 | 555 |
| 2020 | 436 | 194 | 935 | 63 | 67 | 426 | 67 | 726 |
| 2030 | 412 | 198 | 870 | 64 | 78 | 454 | 62 | 952 |
| 2050 | 358 | 210 | 719 | 61 | 90 | 469 | 47 | 1,476 |
| 1960～2010 | 97 | 85 | 590 | 42 | 43 | 269 | 15 | 408 |
| 2020～50 | -77 | 15 | -216 | -2 | 22 | 43 | -20 | 750 |

資料：UN, World Population Prospects: 2019 revision.